

カトリック仙台司教区・カリタスジャパン 東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

今回は、南三陸のお祭り（獅子舞）復活への支援のお話と北仙台教会のこれまでの取り組み紹介、そして、八木山教会の亙理への支援活動で被災した方々とのお花見の模様を紹介します。

流された獅子舞が復活！



獅子舞復活！祭りの前にパチリ！

米川ベースは東日本大震災で壊滅状態にある南三陸町戸倉地区波伝谷（はでんや）の漁師さんたちの作業場へ、昨年の 10 月頃から「定置網の仕立て直し」というボランティア活動に通っている。長く通っているのので今では「カリタスさん」と親しみを込めて呼んでくださる。

ある日漁師さんが震災前は毎年獅子舞をやっていた事を楽しそうに話していたが、祭具が全て津波で流されているので「今年も出来ないんだろうなあ・・・」とぼやいていた。地区の講長さん（地区の行事を行う波伝谷契約講の責任者）から話を伺ったところ、少なくとも 600 年以上続いている伝統的な神事で、全戸・全世代が関わる重要な行事だという話であった。この話を聞き、仮設住宅で離れ離れになっている被災者の人々が再び集まる機会になり、これからずっとこの地区の人たちが交流していける可能性を秘めた素晴らしい復興支援ができるのでは！？と思った。すぐに仙台教区サポートセンターの方たちに相談したところ、支援が決定！！



獅子舞がお神酒を一気飲み！

お祭り当日は特別に日本中から集まったボランティアさんをお昼に招待していただき、感謝を込めて獅子舞を披露して下さった。私は昨年 6 月から活動を続けているが、あんなに嬉しそうな顔をしている被災地の人を見たのは初めてだった。日常生活が突然奪い去られ、

全てを失った人たちから希望を感じる事ができた。

米川(南三陸)ベース長 千葉道生

震災後 2 日目からの活動！

3.11 の未曾有の大震災以後、備蓄してあった非常食を使い、13 日から炊き出しを始めました。

どなたにでもご利用頂けるようにと、今も毎日開店しているチャリティカフェを始めました。

ライフラインが回復した 4 月からは田子、高砂、福室、宮城の体育館等避難所へのコーヒーサービス。そして 7 月からは高砂、鶴巻、扇町一丁目の仮設住宅で喫茶コーナーを定期的にさせて頂いております。

年末からは当教会の信徒によるカットサービスも始めました。

今までこのように続けられてきたのは、多くの方々のお祈りと、たくさんの支援によるものと心より感謝しております。

仮設の方々是一年が過ぎた今も、まだまだ生々しく時が止まっているようで、復興への真の取り組みは長い時間が必要になると思います。しかし、わずかな時間でも定期的に伺い、お茶を飲み、共に笑い、お話を伺いながら、少しでも寄り添い、共に歩めればと願っています。

北仙台教会 村山晶子

みんなで桜を愛でました！

2012 年 4 月 26 日は、八木山教会オリーブの会主催、亙理「旧館仮設住宅」の皆さんとお花見会の開催日でした。前日の気象情報によると、26 日は「曇りのち雨」の予想。心配でした。神様に天気回復を祈り、夜、床に就きましたが眠れぬ夜となりました。



花見なのに花が遠い、花より団子か？

次に、花見会開催に至る経過を少し述べさせていただきます。

「新しい創造第 2 期計画」で、今後は主に仮設住宅に移った被災者支援に重心を移すとのこと。私たち八木山教会は、亙理地区に焦点を定めることといたしました。

八木山教会信徒の方の友人が被災され、旧館仮設に入居されていることが判明し、紹介を受け、本年 3 月 29 日、仮設集会場において、傾聴を目的とした「フラワー・アレンジメントと茶話会」を開催、30 名参加をいただき好評でした。今後の継続も了承されました。日時は月 2 回、第 2、第 4 の水曜日と決められました。当面は、傾聴と、ご婦人方に人気の「着物から洋服への再生プロジェクト」の推進と決められました。



え～！本日は良いお花見日和で～！

茶話会には男性も定着し、盛況が続いております。3 回目の集会で、花見会を提案、多くの方々の賛同があり、4 月 26 日の開催が決まった次第です。

26 日当日は、前夜からの霧雨が残り、不安な幕開けとなりましたが、神様に成功を祈りながら、花見会がスタートすることになりました。

場所は「釜房みちのく湖畔公園」。宮城県では最も良く整備された花木の美しい名園。参加は、被災者の方々 31 名。特別協力ご参加として、小野寺神父様、亙理教会より信徒 4 名。そして八木山オリーブの会 15 名、総勢 51 名でした。

ゲストの皆様を乗せたバスが到着した 10 時半頃、雨もあがり、曇り空ながら花見日和。八木山の信徒の方々の祈り、オリーブの会の働きを神が認めてくださったようです。満開の桜、水仙に囲まれ、参加者一同笑顔でよく食べ、おしゃべりし、なつかしい唱歌を合唱して、皆が一つになり、絆を強めたと感じたひとときでした。

13 時過ぎ、帰路につくバスを奉仕者一同でお見送りし、お花見会は無事終了いたしました。最後に一同、小野寺神父より講評、お祈りをいただき、続いて、全員で分かち合いの言葉をそれぞれ述べました。



来年もやろうね！

被災者の方々が明るく振舞っているが、内心多くの悲しみを背負っておられることを感じた方が多かったようです。被災者の心の復興は、これから始まると思います。私たちは彼らのご苦勞に寄り添い、できるかぎり協力せねばならぬと強く感じた 1 日でした。

最後に、協力参加して下さった小野寺神父様、亙理教会の皆様、バス費用を寄付して下さった田園調布教会に厚くお礼申し上げます。

八木山教会オリーブの会 片岡 保彦